

日光市の空き家事情

特集

新しい 空き家のカタチ



空き家とは？
居住または店舗運営のために建築されたけれど、現在誰も居住や使用をしていない一軒家やアパート、店舗、またその敷地のことをいいます。また、別荘や海外出張などで長期不在の家も空き家に含まれます。

現在、市内には約7,420戸(うち一戸建ては4,240戸)の空き家や空き室があります。これは、市全体の建物の約20%を占めるものです。
このまま空き家が増えていくと、近い将来、近所の家がほとんど空き家、ということが現実味を帯びてきました。
もはや空き家問題は所有者だけの問題ではなく、皆さんにとっても身近なものとなっているのです。



なぜ空き家が増えたのか

自分や親が住んでいた家が、引越しや家族の他界などの理由により、誰も住まなくなる。するとその家は空き家になってしまいます。

市内の空き家増加の背景には、少子高齢化に伴う人口減少や核家族化、転出者の増加などがあります。

空き家増加のデメリット

空き家が増えていくと、その地域に大きく分けて3つの問題が出てきます。

① 犯罪の温床となる可能性

空き家になることで、不法侵入や盗難、放火などの犯罪の対象になる可能性があり、治安悪化の原因になります。

② 建物の老朽化による危険性

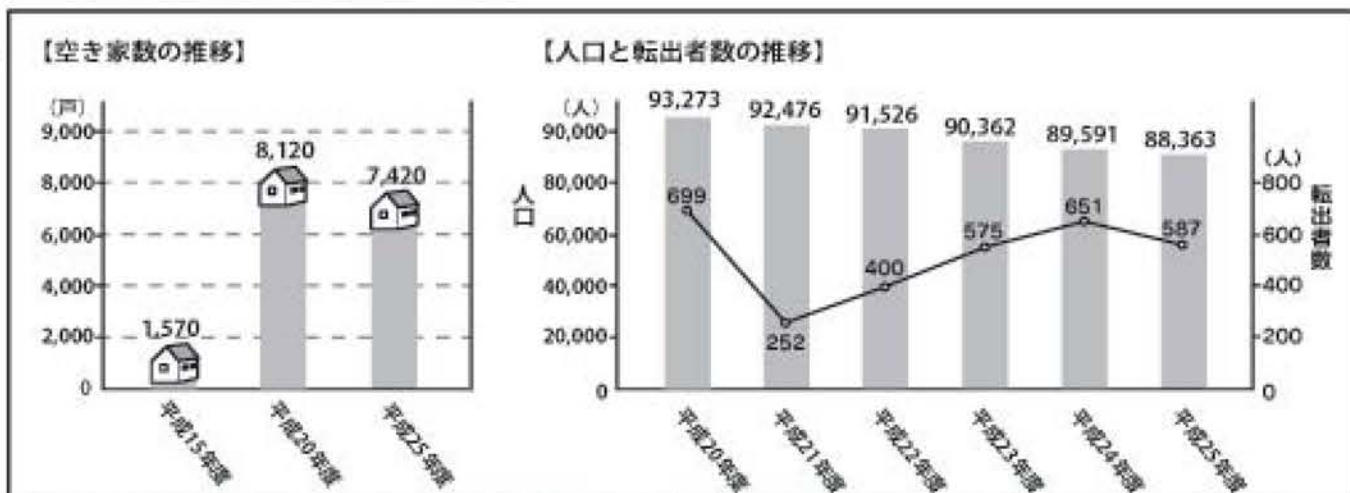
建物自体が使われないことによって老朽化が進み、倒壊などの恐れがあります。

③ 景観の悪化

空き家が増えてしまうと、街並みの景観がとてつもないものとなってしまい、街全体の活気が無いように見えてしまいます。

また、ごみの不法投棄などの原因にもなり、景観が壊されてしまう可能性があります。

日光市の人口推移と空き家の関係



※文中や表中の数字は、「住宅・土地統計調査結果(総務省統計局)」および「住民基本台帳」から引用

誰も住まなくなつた家。誰も使わなくなつたお店。これらを管理するためには、意外と手間やお金がかかります。しかしそのまま放置して老朽化が進むと、安全性を損ね近隣に被害を与える可能性があります。また、景観や環境を壊す原因にもなりかねません。
維持していくのは大変。放置するのは危険。
では、誰もいなくなったその空き家、一体どうすれば良いのでしょうか。
今回は、そんな空き家について考えていきます。

